吹田市
文化財ニュース

No. 16
平成7年3月31日
〒564 吹田市岸部北4丁目10番1号
吹田市立博物館
TEL (06)338-5500
FAX (06)338-9886

平成6年度に発見された遺跡

ここ数年、住宅・ビル建築などの開発行為が急増しています。そのため今年も新たに発見された遺跡や、従来まで知られていた範囲が拡大した遺跡が増加しています。平成6年度については、埋蔵文化財発掘調査の結果、西の庄遺跡B地点・高城遺跡B地点・高城遺跡C地点・昭和町遺跡・宮之前遺跡B地点・山田上遺跡・神境町遺跡の7遺跡が新たに発見されました。

また、垂水遺跡・高浜遺跡・高城遺跡B地点・片山東屋敷廻遺跡・元町遺跡・蔵人遺跡の6遺跡8件で、遺跡の範囲がさらに拡大することがわかりました。これらの遺跡のうち、今回は片山東屋敷廻遺跡について紹介します。

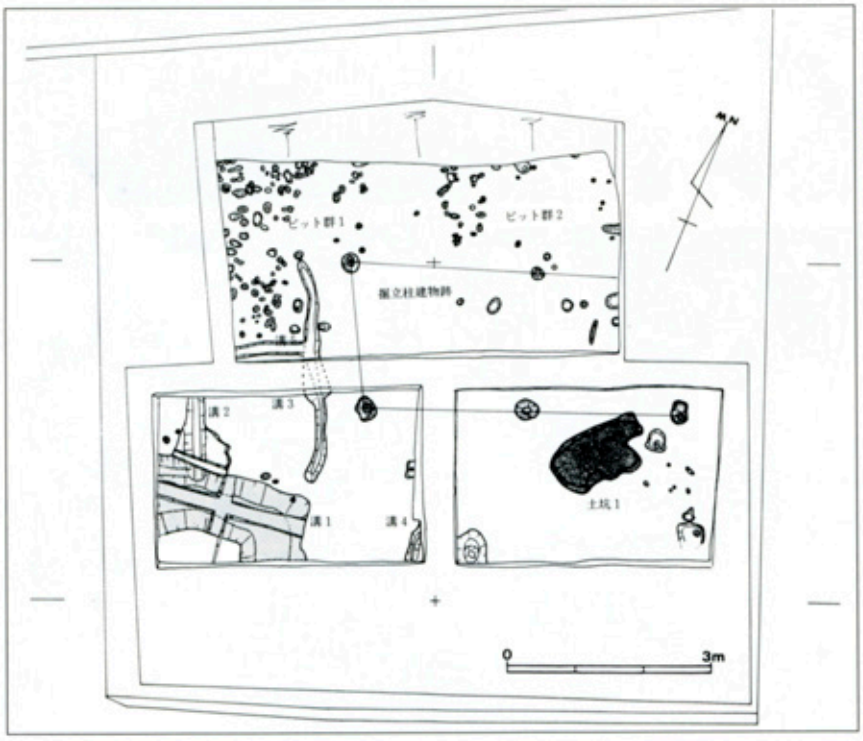
なお、これらの地域では、今後土木工事等の開発行為を行う場合には、届出が必要になります。詳しくは、博物館までお問い合わせ下さい。

◀新しく発見された遺跡の位置図

片山東屋敷廻遺跡の発掘調査

片山東屋敷廻遺跡は吹田市片山町４丁目に所在します。昭和40年代に周辺一帯が住宅造成された際に、古墳時代の遺物が採集され、遺跡の存在が確認されました。その後は、本格的な発掘調査の行われる機会がなく、遺跡の性格については明らかではありませんでした。今回の調査は、個人住宅の建築工事に伴う事前調査として、平成６年６月から７月にかけて実施されたものです。調査の結果、遺物包含層（古墳～平安時代）、溝５条、掘立柱建物跡、小ピット群、歴史時代の土坑１基などが検出されました。土坑は、長さ150ｃｍ、幅80ｃｍを測る楕円形のもので、中からは、須恵器甕口縁部とこれと別個体の須恵器甕体部が押しつぶされた状態で検出されました。出土状況から、甕棺等が埋納されたのでなく、壊れたものを廃棄したのだと考えられます。掘立柱建物跡は、２×１間？のものが１棟確認されましたが、調査区域外に伸びる可能性もあります。小ピット群は２か所で集中して検出されました。10ｃｍ×10ｃｍ大～20ｃｍ×14ｃｍ大のものが合計140か所も検出さ

▲G1・2　遺構検出状況（西から）



◀遺構平面図

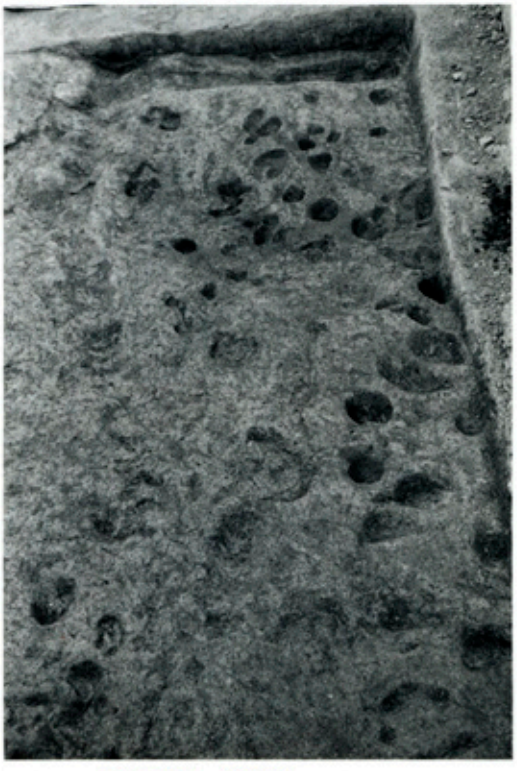
れ、中には人の足跡と思われるのも数か所認められました。

出土遺物は、土坑１から８世紀頃のものと思われる須恵器の甕の口縁部・体部の出土があった他、遺物包含層等から須恵器（杯・甕等）、土師器（杯・甕）、黒色土器が認められ、細片で磨滅が著しいものがほとんどですが、古墳～平安時代の所産と判断されます。その他、水田耕土層から屋根形陶棺の蓋の破片（古墳時代）が見つかっています。

以上、検出された遺構は、土坑１を除くと出土遺物が細片で極めて少ないことから時期の決め手に欠けます。最も残りの良い土坑１出土の須恵器甕を検討しますと、８世紀頃のもので、しかも吹田市域に分布する千里古窯跡群で生産されたものではなく、播磨産のようです。また、千里古窯跡群は７世紀前半頃までは須恵器生産を行っていましたが、後半頃には終息に向かいます。これらのことから、当地には須恵器生産に直接関わらなかった人々の集落があり、土坑、溝、掘立柱建物跡、小ピット群等の遺構はその一部である可能性もあります。本格的な調査は今回が初めてであり、今後の周辺の調査の進展に大いに期待がもたれましょう。

▲土坑１　須恵器出土状況（南から）

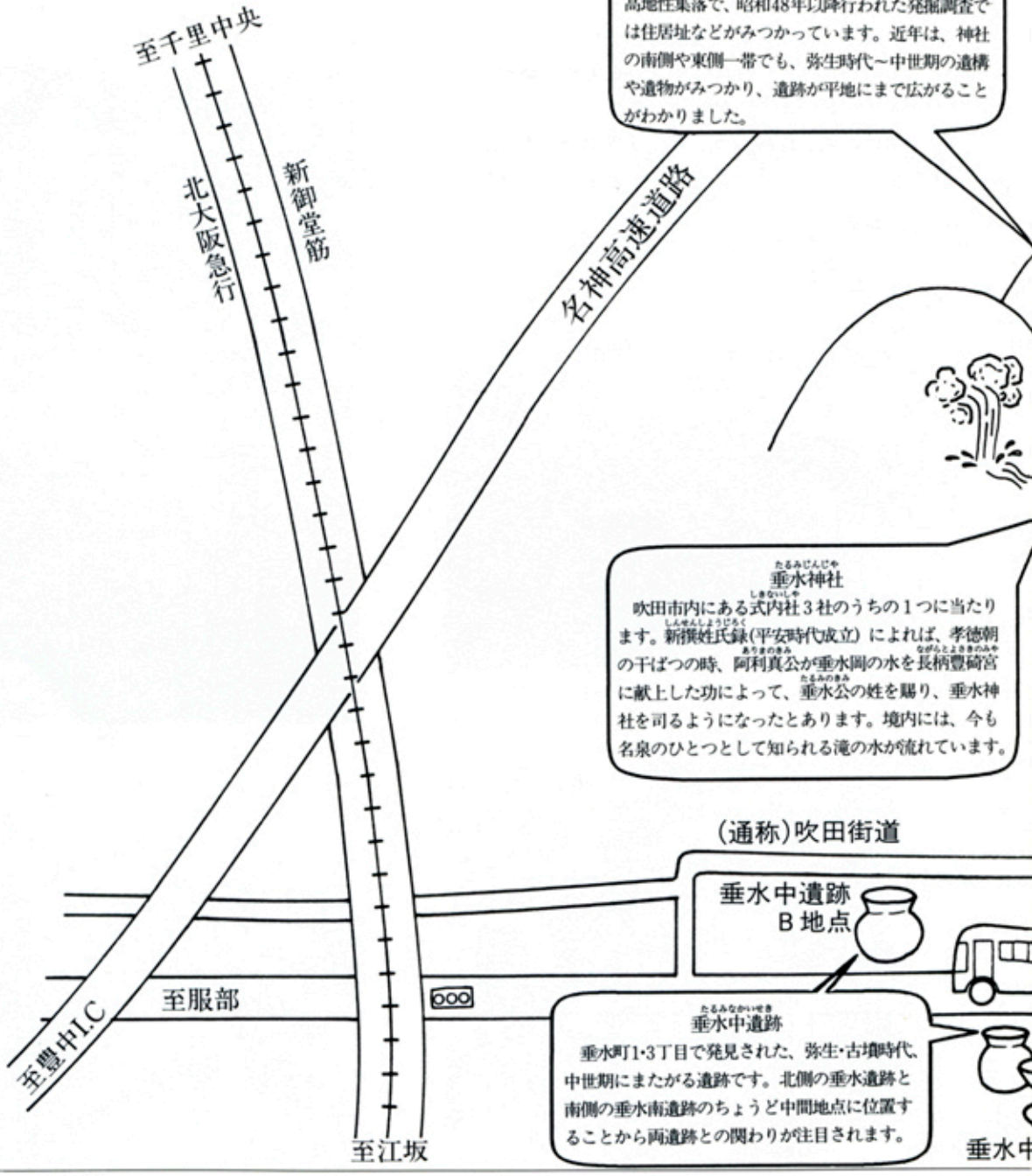
▼同細部（東から）



▲ピット群１（北から）

▼ピット群２（東から）

豊津駅周辺の歴史散歩



垂水遺跡

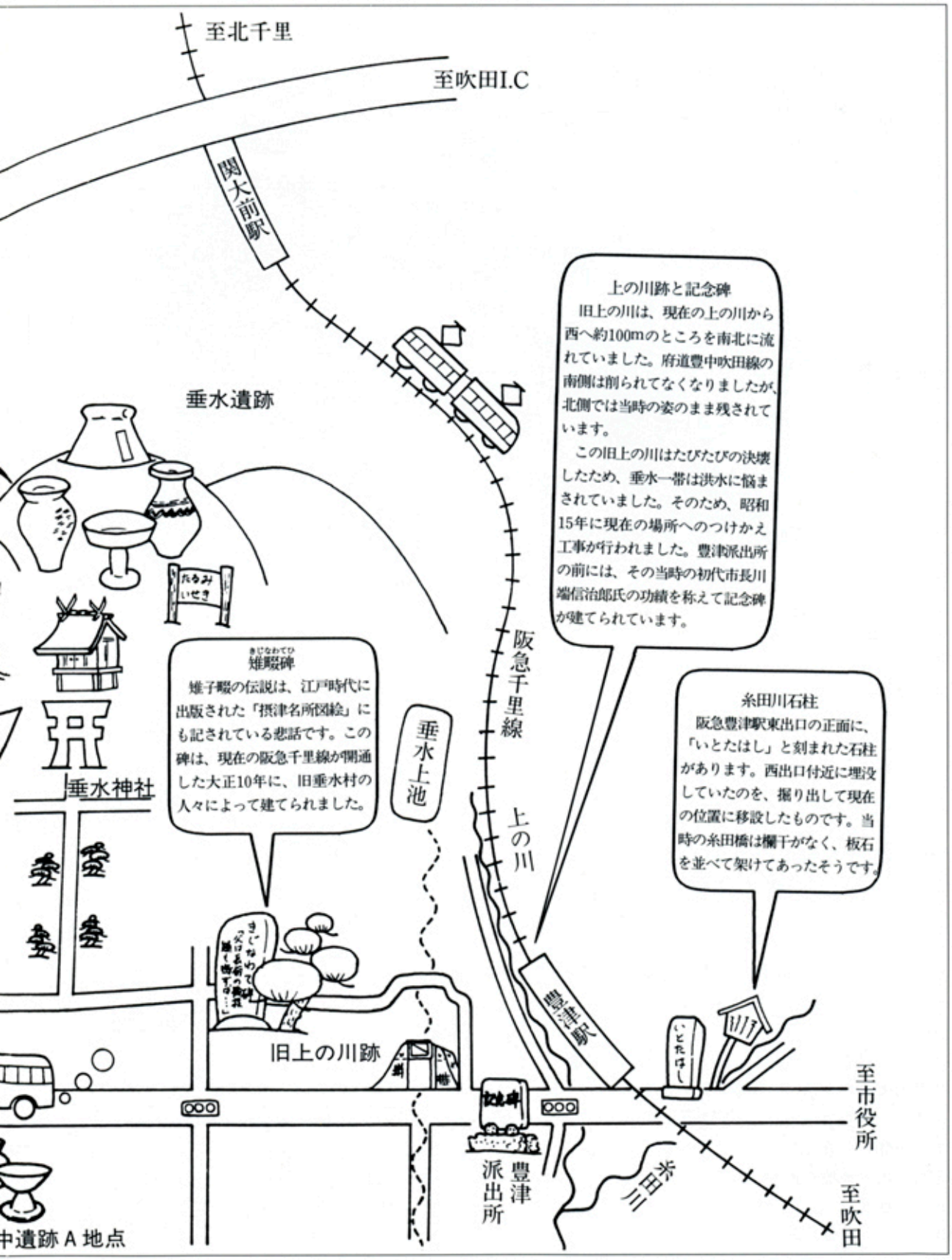
垂水神社北側の丘陵一帯には、垂水遺跡があります。この遺跡は弥生時代後期の大規模な高地性集落で、昭和48年以降行われた発掘調査では住居址などがみつかっています。近年は、神社の南側や東側一帯でも、弥生時代～中世期の遺構や遺物がみつかり、遺跡が平地にまで広がることがわかりました。

垂水神社

吹田市内にある式内社３社のうちの１つに当たります。新撰姓氏録(平安時代成立)によれば、孝徳朝の干ばつの時、阿利真公が垂水岡の水を長柄豊碕宮に献上した功によって、垂水公の姓を賜り、垂水神社を司るようになったとあります。境内には、今も名泉のひとつとして知られる滝の水が流れています。

垂水中遺跡

垂水町1･3丁目で発見された、弥生･古墳時代、中世期にまたがる遺跡です。北側の垂水遺跡と南側の垂水南遺跡のちょうど中間地点に位置することから両遺跡との関わりが注目されます。


至北千里
至吹田I.C
関大前駅
垂水遺跡
たるみいせき
垂水神社
阪急千里線
上の川
垂水上池
旧上の川跡
豊津駅
豊津派出所
糸田川
至市役所
至吹田
中遺跡A地点
上の川跡と記念碑
旧上の川は、現在の上の川から西へ約100mのところを南北に流れていました。府道豊中吹田線の南側は削られてなくなりましたが、北側では当時の姿のまま残されています。
この旧上の川はたびたびの決壊したため、垂水一帯は洪水に悩まされていました。そのため、昭和15年に現在の場所へのつけかえ工事が行われました。豊津派出所の前には、その当時の初代市長川端信治郎氏の功績を称えて記念碑が建てられています。
雉子畷碑
雉子畷の伝説は、江戸時代に出版された「摂津名所図絵」にも記されている悲話です。この碑は、現在の阪急千里線が開通した大正10年に、旧垂水村の人々によって建てられました。
糸田川石柱
阪急豊津駅東出口の正面に、「いとたはし」と刻まれた石柱があります。西出口付近に埋没していたのを、掘り出して現在の位置に移設したものです。当時の糸田橋は欄干がなく、板石を並べて架けてあったそうです。
いとたはし

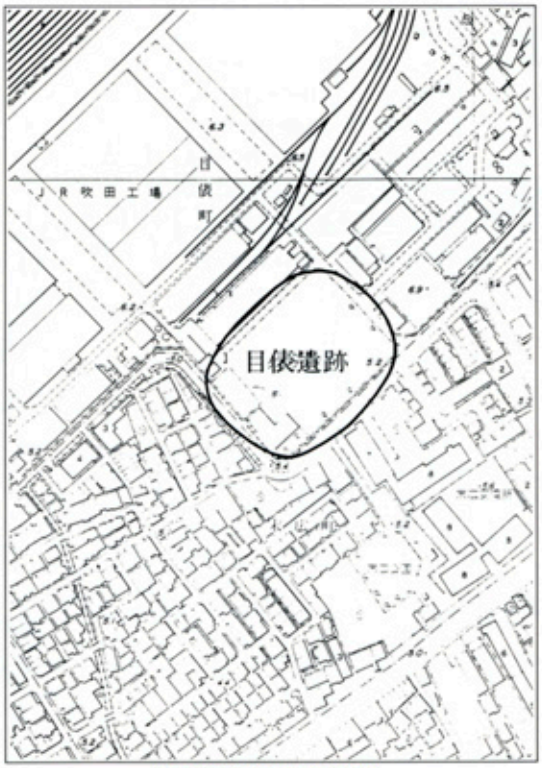
目俵遺跡の発掘調査

▲調査風景

目俵遺跡は、(仮称) 目俵市民体育館建設に伴う事前の試掘調査によって、平成５年に発見された遺跡です。試掘調査では、弥生、鎌倉、室町時代の３時期にわたる土器片などが多く検出され、当地にこれらの時代の生活跡のあることがわかりました。そして、この発見によって、体育館を建設する前に、建築予定地を対象に、全面発掘調査を実施することになりました。調査面積は約4600㎡と、吹田市内では、昭和61年度に実施した五反島遺跡の発掘調査（調査面積約8500㎡）に次ぐ大規模なものです。

発掘調査は、試掘調査で３時期にわたる生活面が認められたことから、３段階に分けて新しい時代の土から掘削をしていきます。そして、１つの時代の地層を掘削し終えるごとに、測量や写真撮影などの記録作業を行います。

さて、調査は、平成６年12月から人力による掘削を開始しましたが、平成７年３月現在で、室町時代の地層を掘削し終え、次の鎌倉時代の地層を掘削しているところです。ここで、３月現在までの調査の状況を簡単に紹介します。



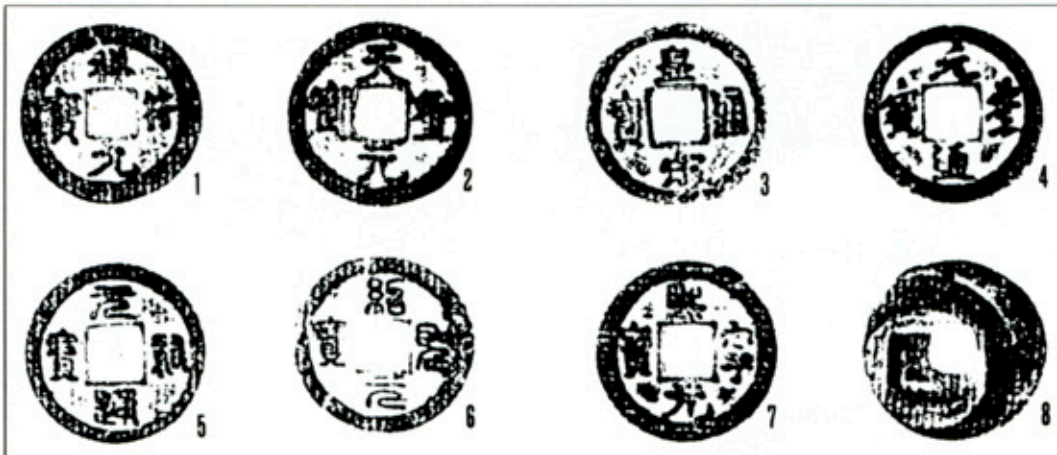
▲目俵遺跡位置図（1/5000）

まず遺物についてですが、１段階目の掘削を終えた時点での出土遺物は、広い年代幅をもっており、前述の３時代の他に、古墳、平安時代のものなども含まれていました。そして、その多くが室町時代に属するものでした。遺物は、土師器や瓦器などの日常雑器（皿、椀、羽釜など）の他、当時は貴重品であった中国製の青磁・白磁の破片が多数出土し、また中世に広く流通した宋銭も検出されました。

次に検出遺構については、築造時期が室町時代にまで遡る可能性をもつ道跡１条、１間×１間の掘立柱建物跡を２棟検出しました。この他、近世以降のものと考えられる畦畔などの耕作地の区画を示す跡がみられました。

これらの遺構・遺物については、発掘調査終了後、整理・調査を行いますので、さらに詳しい年代や性格などがわかるものと考えられます。また、継続して鎌倉、弥生時代の地層を掘削していきますので、目俵遺跡を知る上での資料が、今後増加することが期待されます。

▲検出された道跡



1．祥符元寶　　4．元豊通寶　　7･8．鋳型ずれのある熙寧元寶

2．天聖元寶　　5．元祐通寶

3．皇宋通寶　　6．紹聖元寶　　7)表面　8)裏面

▲出土した宋銭

復旧された道標(みちしるべ)
～山田三つ辻道標～

江戸時代の石製の道標で、当時の山田村と他地域との交流や人々の生活と信仰のようすがわかる貴重な文化財として、市の刊行物で紹介されたり、「文化財めぐり」など各種の行事で探訪され、市民に親しまれている山田三つ辻道標が約2年ぶりに山田東4丁目の元あった場所に復旧されました。これは平成4年7月に道標の根元部分が横に、あたかも刀で切断されたかのような状態で折損していたために、文化財を保護する必要から緊急措置として市立博物館で仮保管していたもので、そのため、これまで現地では見ることができず、地域や文化財関係者から復旧の要望がよせられていたものです。

復旧にあたっては、2分された道標を接合しなければなりませんでしたが、それは単に「石」を接合し再設置すればよいというのではなく、文化財としての価値を失わせることとならないように「文化財の保存修理」として行われる必要がありました。そのため、文化財の保存や活用について研究を行っている奈良国立文化財研究所が石造製品を修復する場合と同じ技術を用いて慎重に作業がすすめられ、地域の歴史の語りべとして未来に受け継がれるべき貴重な文化財として現地で保存され活用できることとなりました。是非一度お訪ねください。

▲山田三つ辻道標（折損前）

山田三つ辻道標
所在地　吹田市山田東4丁目16番地先
交　通　阪急バス「三つ辻」停留所から九十九橋東へすぐ